

掲載開始日：2020年4月3日

研究利用管理番号

1803001-02

研究内容の説明文

さい帯血提供者説明用課題名 (括弧内は申請課題名)	さい帯血移植時に発生するアレルギー反応の原因究 明のための検査法開発 (同上)
研究期間(西暦)	2017年4月～2021年3月
研究機関名	日本赤十字社近畿ブロック血液センター 製剤部 製剤開発課
研究責任者職氏名	製剤開発二係長 保井 一太

研究の説明

1 研究の目的・意義・予測される研究の成果等

移植したさい帯血により副作用が起きる場合がまれにあります。アナフィラキシーショックと言われるアレルギー性の重篤な副作用に対しては、現在のところ確立された検査方法がありません。今後、安全なさい帯血移植を行っていくために、この副作用の検査方法を開発することが重要な課題となっています。私たちはこれまでに、輸血の際に起きたアレルギー性副作用の検査法の開発に成功しています。この検査方法を応用し、さい帯血移植の際に起きたアレルギー性副作用の検査方法を確立することを研究目標としています。

2 使用するさい帯血等の種類・情報の項目

さい帯血等の種類：さい帯血の保存検体（アレルギー性副作用を発症したさい帯血移植患者で、遡及調査の実施に支障が生じない場合に限る）

さい帯血等の情報：なし

3 さい帯血等を使用する共同研究機関及びその研究責任者氏名

共同研究機関はありません。

4 研究方法《さい帯血等の具体的な使用目的・使用方法含む》

さい帯血等のヒト遺伝子解析：行いません。 行います。

《研究方法》

本研究は、過去10年間にアレルギー性副作用が報告された移植症例、及び今後のさい帯血移植でアレルギー性副作用の報告があった移植症例（研究計画終了時まで）を対象に受身好塩基球活性化試験を実施します。受身好塩基球活性化試験は、患者さんの血漿（血清）中のIgE抗体を別の健常者の細胞に結合させ、同細胞に移植したさい帯血の細胞の残り（入手可能な場合のみ）やさい帯血を凍結させる時に加える薬剤（Dimethyl

sulfoxide (DMSO) 及び低分子デキストラン) を反応させた時の変化 (活性化) を調べる検査方法です。これにより、さい帯血移植に伴うアレルギー性副作用と先の測定物質や移植細胞との因果関係を明らかにすることが期待できます。

5 さい帯血等の使用への同意の撤回または研究使用の停止について

研究に使用される前で、個人の特定ができる状態であれば同意の撤回及び研究使用の停止が出来ます。

6 上記5を受け付ける方法

日本赤十字社近畿さい帯血バンクへさい帯血を提供され、同意の撤回もしくは研究使用の停止を希望される方は当該さい帯血バンクまでご連絡下さい。

電話：06-6962-7056

本研究に関する問い合わせ先

所属	日本赤十字社近畿ブロック血液センター 製剤部 製剤開発課
担当者	保井 一太
電話	072-643-1797
Mail	kazuta-yasui@kk.bbc.jrc.or.jp